

# 上海図書館利用案内

〈出張報告〉

2009年8月

住家正芳

2009年8月22日より29日まで、上海図書館本館および上海図書館徐家匯蔵書楼にて資料調査を行い、中華民国期の宗教および社会進化論に関する資料を閲覧、収集した。

上海図書館についてはホームページ (<http://www.library.sh.cn/>) があり、日本語ページまで用意されている。また、すでに多数の日本人が利用しているようなので、改めて説明するまでも無いかもしれないが、以下、今後利用される方の便宜となりそうなことを記しておきたい。ただし、あくまでもこれは私が訪れた時点での状況であるので、最新の情報などについてはホームページを参照していただきたい。

## 〈上海図書館本館〉

まず、利用者は利用カードを購入する。長期、短期などの種類があり、それに応じて金額が変わる。日本人研究者が利用するのは主に、一年有効の参考閲覧機能（レファレンス閲覧カード）か一ヶ月有効の臨時参考閲覧機能（臨時レファレンス閲覧カード）と思われるが、前者で25元、後者で5元となる。なお、日本語ホームページの臨時レファレンス閲覧カードについての説明では、上海図書館本館しか利用できないかのようにになっているが、中国語ホームページの利用規程が正しく、徐家匯蔵書楼なども利用することができる。

さて、本館正面入り口に入って右手に申請コーナーがあり、ここのパソコン端末に必要事項を入力してゆく。アシスタントの係員もいて、使い方を教えてくれる。端末の入力を済ますと、入力内容を印字した紙がプリントアウトされるので、それにパスポートと必要な金額を添えて窓口提出すれば、カードを即時発行してくれる。

図書館内に鞆を持ち込むことはできないため、正面入り口すぐ横にあるロッカー室に預けることになる。ロッカー室前には空港にあるような持ち物検査装置があり、係員が座っているが、装置に通すよう言われることはあまり無い。

ロッカー室にも窓口があり、まずそのカードチェック装置に、先ほど発行してもらったカードを通す。これは、カードが有効であることを確認するためで、図書館の施設を利用する際にはその都度要求される。ロッカーは無料で、ボタンを操作すると空いているボックスが開き、暗証番号を記した紙切れが発行される。荷物を取り出す際には、この紙に書かれた暗証番号が必要となるが、きわめて小さな紙切れなので、なくさないよう注意した方がよい。

## 〈上海図書館・近代文献閲覧室〉

上海図書館本館1階に、近代文献閲覧室があり、中華民国期の文献を閲覧することができる。『申報』や『良友』の影印本などは開架されているが、基本的に閉架であり、窓口で申請して資料を出してもらふことになる。

ロッカー室を出ると、左にパンなどを売る軽食コーナーがあるが、その横にある入り口を入ると、蔵書カードや検索用パソコンが並んでおり、近代文献閲覧室の窓口もそこにある。ここでもまず、カードチェック装置にカードを通す。カードはそのまま係員に提出するが、代わりに近代文献閲覧室独自の閲覧証を渡され、閲覧申請書をくれるので、そこに、もらった閲覧証の番号と希望する図書の検索番号やタイトルを記入する。

上海図書館の蔵書はネット上で日本からも検索することができ、「館蔵地」欄に「近代図書館」とあるものが、近代文献閲覧室の蔵書ということになる。

閲覧申請書を提出したら、窓口に向かって右手にある閲覧室に入る。ここにも入ってすぐ窓口があるので、先ほどの閲覧証を渡し、空いた席に座って資料が来るのを待つ。たいてい15分ほどで資料が到着する。すると、閲覧証の番号を呼ばれるので、自分の番号を呼ばれたら窓口で受け取り、閲覧することになる。

資料によっては破損していて閲覧できないものもあり、たまたまかもしれないが、今回、そういったものが多かった。また中には、PDF化されてパソコン画面上で閲覧できるようになっている資料もある。閲覧室の奥にパソコンが並んでおり、それがPDF化された文献を閲覧するためのものとなっている。申請した図書がPDF化されている場合はパソコンで見るよう指示され、使い方も係員が教えてくれる。使い方が分かれば特に断らずに使用してもかまわないようである。

資料をコピーしたい場合は、閲覧室の窓口で申し出てコピーすることになるが、たいていの利用者はデジカメを持ち込んで撮影していた。その場合、撮影する前に閲覧室の係員にその旨を伝えておき、最後に退室する際、撮影した枚数を申し出て支払うことになる。撮影1枚につき1円で、コピーより若干割高だが、手間を考えると撮影のほうが良いように思える。当然ながらフラッシュは禁止されている。

今回、私は利用しなかったが、マイクロフィルムを閲覧する装置も多数、備え付けられており、こちらも多く利用者が写真撮影をしていた。パソコン閲覧の場合も撮影して良い。

なお、図書館地下の食堂もカード式で、階段を下りたところにある窓口でデポジットを支払ってカードをもらい、食事を受け取る際にそのカードに金額を記録する。そして食事後にカードを返却し、デポジットから食事代を差し引いた額を返してもらう仕組みとなっている。券売機式と比べ、いったいどちらが「進んでいる」と言えるのか、しばし考え込んでしまった。味は、さほど悪くはない、といったところである。図書館の外にも飲食店やコンビニがある。

#### <上海図書館・徐家匯蔵書楼>

古くは1515年から、人民共和国成立の1949年までの欧文および日本語文献を収蔵する。とはいえ、やはり19世紀から20世紀にかけての時期のものが中心のようである。もともとイエズス会の施設だったこともあり、キリスト教の宣教活動に関する資料が多数収められている。蔵書の検索は備え付けのパソコンで行うことが可能だが、残念ながら、この蔵書はここに来なければ検索することができない。

施設は漕溪北路の大通りに面しており、地下鉄1号線徐家匯駅の出口にも近い。徐家匯天主堂はすぐ横にある。ここでも、まず1階にあるロッカーに鞆を入れてから2

階に上がり、受付でカードチェック装置にカードを入れ、閲覧者名簿に氏名や所属を記入する。若干の開架図書があるが、基本的に閉架であり、申請書に記入して待つことになる。貴重書や痛みの激しい本が多いため、閲覧室は日中も鎧戸をおろして日光を遮っており、上海の秋葉原とも言われる電気街や高級デパートの立ち並ぶ周辺界限とは別世界の趣である。なお、本館もそうだが、室内の冷房はきつめで寒いくらいである。ここでも写真撮影は可能だが、撮影1枚につき10元と、高価になる。やはりフラッシュは禁止されているので、閲覧用の灯りで撮影することになる。

日本人もここをしばしば訪れるようで、8月は私以前に4人来たとのことだった。日本人の名前にもある程度通じているようで、受付の係員に2人して、君の名前はどれが姓なんだ、こんな名前は日本人にも少ないだろうと言われ、以前中国を旅行した際、名前を書けと言っているのになんでお前は住所を書こうとするんだ、しかもなんだこの変な住所はと、怒られたことを思い出した。

### <上海の宗教施設>

今回、資料収集の合間に宗教施設も見て回った。カトリック教会は礼拝時間以外なら中を見学することができるが、礼拝時間になると信徒以外は閉め出される。逆に、プロテスタント教会は礼拝時間以外に入れないことが多いが、礼拝には信徒以外も参加することができる。イスラム教モスクはカトリック教会同様、礼拝時間以外であれば、声を掛けると中を見せてくれる。その他、虹口にあったユダヤ教シナゴグ跡が整備され公開されている。ただし、ここはあくまでも記念施設であり、信仰の場所ではない。正教の教会も建物は残っているが、現在は他の用途に使われている。

なお、上海の宗教施設については、周富長（主編）『上海宗教之旅』上海辞書出版社、2004年が参考になる。地図については、木之内誠（編著）『上海歴史ガイドマップ』大修館書店、1999年が大きな助けとなる。

現在、上海は来年の万博開催に向けて街中至る所で工事が行われている。新しい施設の建設だけではなく、歴史的な建築も壁の塗り替えなどが行われており、宗教施設も多くが工事中であった。工事の影響か、ある教会では礼拝中にあちらこちらで天井の漆喰がはがれ落ちていた。私のすぐ横に座った少年も直撃を受けて大騒ぎ（大喜び？）していたが、小学校に上がるかどうかといったくらいの歳格好で、礼拝の間も落ち着かずにむずかっていたその少年が聖書も賛美歌もすらすら暗唱していたのには驚かされた。

外灘にある黄浦江沿いの遊歩道も、いつもなら観光客でいっぱいだが、やはり工事中で、和平飯店南楼など主要な建築物のいくつかも工事用の足場に覆われてしまっていた。そうした工事のせいか、夏場で気温、湿度ともに高いにもかかわらず埃っぽく、これから冬になり空気が乾燥してくるとどうなることかと思われた。冬に行かれる方はマスクを用意されるべきであろう。

以上



浦東モスク



国際礼拝堂（プロテスタント）



東正教堂



虹口シナゴーク



徐家匯天主堂 (カトリック)